

行田市忍川浸水対策連絡協議会



【再確認】

行田市忍川浸水対策連絡協議会とは

(R3.4.27 (火) 教育文化センター「みらい」にて設立会議を開催)

設置要綱について（再掲）

目的

- 令和元年東日本台風により、一級河川忍川の越水、溢水等により甚大な被害を受けた地域の浸水対策を推進するため、市及び地域の住民が相互に連携を図り、情報を共有することを目的とする。

組織

- 関係自治会の会長（12自治会）
 - ・第二旭 向友会 緑町 一佐間 二佐間 佐間神明 佐間三間 下忍区 堤根区 樋上区 南駒形 下忍団地
- 行田市（部長級5名）
 - ・建設部長（座長）、危機管理監、都市整備部長、環境経済部長、総合政策部長
- オブザーバー（2機関）
 - ・埼玉県行田県土整備事務所、独立行政法人水資源機構利根導水総合事業所

所掌事項

- 忍川整備に関する
 - ・情報共有
 - ・地域の意見集約
 - ・その他忍川整備の促進に必要な事項

協議会の活動について

○令和4年度スケジュール（予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例会など			情報伝達訓練		第1回会議	※第2回以降は事業の進捗を踏まえ判断						

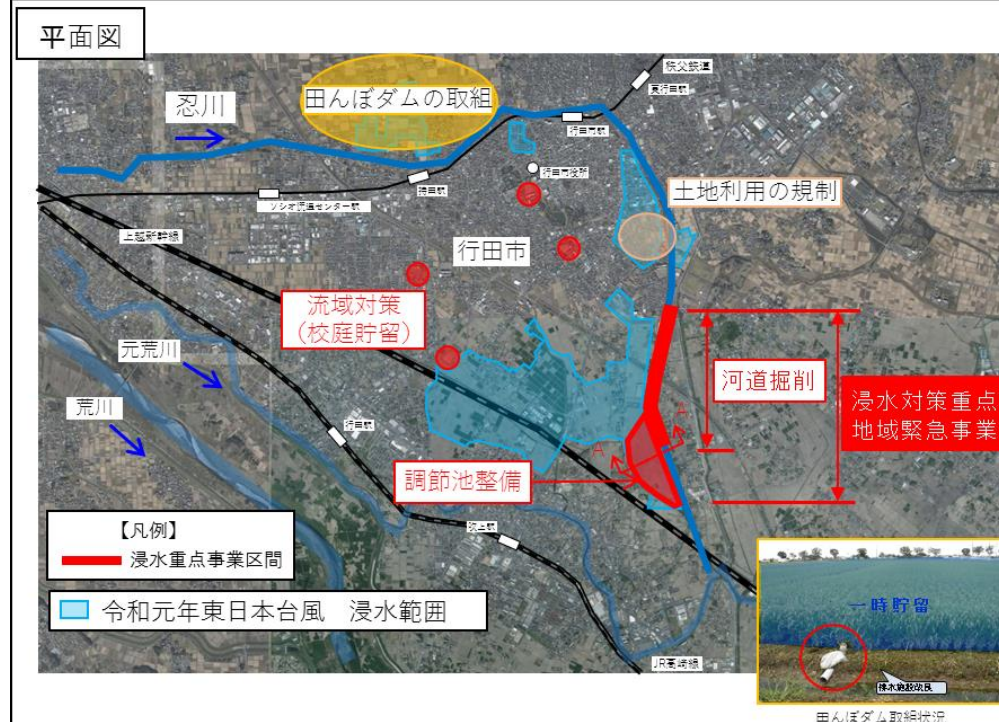
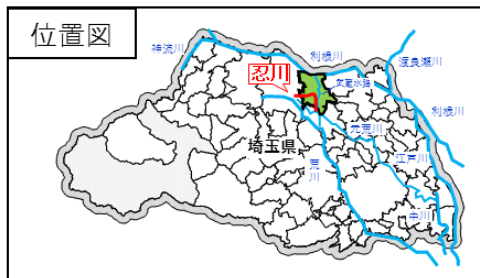
- 会議で使用した資料は、とりまとめの上「ぎょうだ忍川浸水対策連絡協議会だより」として関係自治会において回覧に供し、情報の共有化を図る。
- 協議会における意見については、事業主体との間で共有する。

浸水対策事業の概要（再掲）

浸水対策重点地域緊急事業【利根川水系忍川】（埼玉県・行田市）

浸水重点

埼玉県行田市の利根川水系忍川では、令和元年東日本台風により、床上浸水55戸、床下浸水194戸の甚大な浸水被害が発生。このため、浸水対策重点地域緊急事業により、調節池の整備、河道掘削、校庭貯留等を実施し、早期に地域の安全性の向上を図る。



- 〈県・市の独自事業〉
- 県単独事業
 - ・県：樹木伐採・土砂掘削、堤防整備
 - ソフト対策
 - ・県：中高頻度の水害リスク情報図作成
 - ・市：マイ・タイムライン作成
 - 適切な維持管理
 - ・県：定期的な土砂撤去等
 - 流域対策
 - ・市：田んぼダム、市街化調整区域の浸水リスクが高いエリアにおける開発許可の厳格化

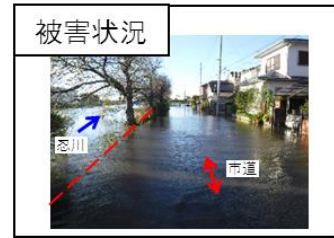
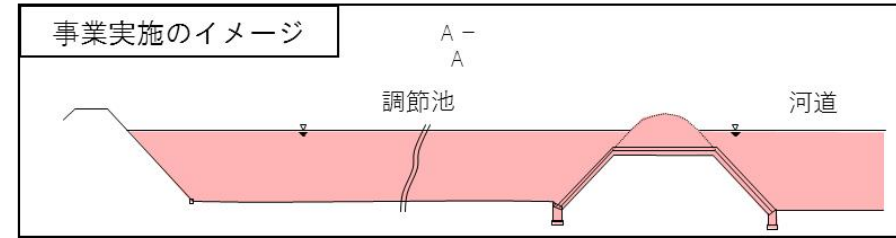
【全体計画】
 河川名：一級河川利根川水系忍川
 事業内容：調節池、河道掘削、橋梁架換、用地買収、校庭貯留等
 全体事業費：約75億円
 事業期間：R3～R8
 施工地：行田市

【令和3年度当初】
 事業内容：用地買収、測量設計等
 事業費：506百万円（国費252百万円）



浸水戸数		
地区名	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
合計	55	194

※令和元年東日本台風による浸水被害



※各施設は、今後実施する詳細な調査や検討等の結果により、変わる可能性もある。
 ※防災・安全交付金については、国の意図を示すものであり、計画への配分後の用途は地方の裁量に委ねられ、国の意図と異なる配分を妨げるものではない。

※R3.3.30
 国・県の
 記者発表
 資料

行田市取組（今年度）について

忍川浸水対策事業に伴う3つの取組

①

校庭貯留（道路治水課） ※経過報告

②

田んぼダム（農政課） ※経過報告

③

情報伝達訓練の実施等（危機管理課） ☆新

①校庭貯留

○小学校4か所【忍、南、西、泉】において実施予定

※このうち、令和4年度は忍小の工事及び南小の実施設計に着手中

実施スケジュール（予定）

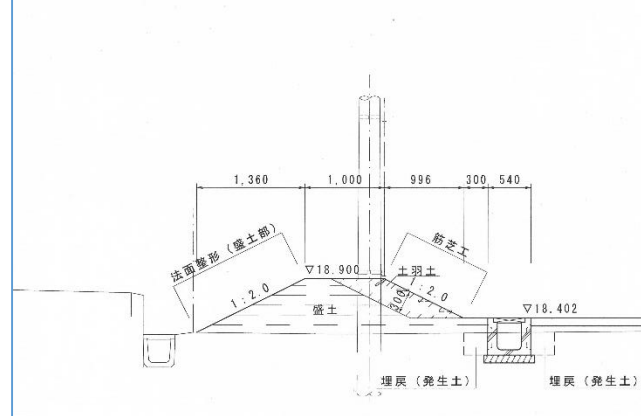
	貯留量（予定）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
忍小学校	970m ³	実施設計	工事				
南小学校	1,150m ³		実施設計	工事			
西小学校	970m ³			実施設計		工事	
泉小学校	1,280m ³				実施設計		工事



忍小学校（校庭）現況

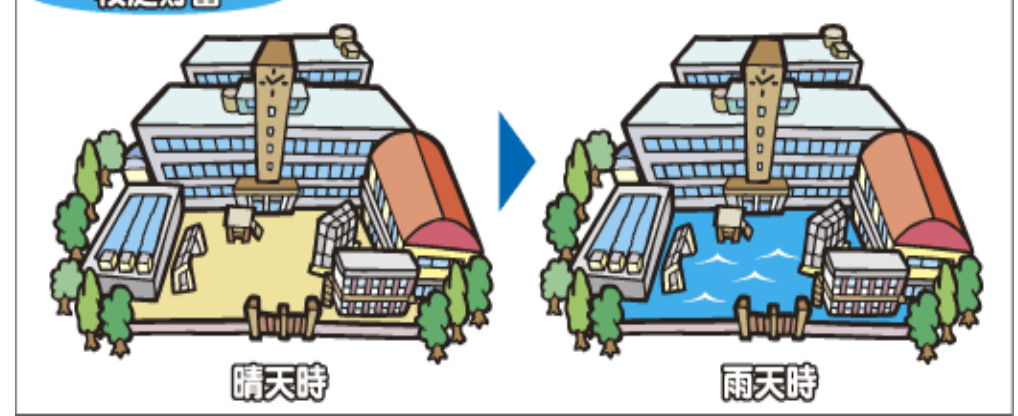


施設断面



校庭貯留

整備イメージ



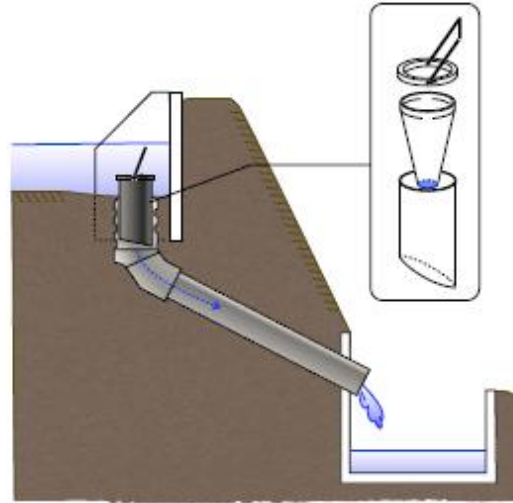
② 田んぼダム

○ 田んぼダム事業

令和2年7月に市内17の多面的機能活動組織に田んぼダムへの取り組み依頼を行い、田んぼにある排水管を止水し雨水を貯留する方式で実施したところ、その運用過程において、大雨が予想される前に排水管を止水する操作が必要であり、協力者である農家の負担が大きいことが課題として明らかになりました。

こうしたことから、地元の負担軽減を図り治水効果を高めることを目的に、本年度、試験的に田んぼダム用の水位調整管の整備を予定しております。併せて新潟大学農学部と連携し田んぼダム事業の治水効果解析を行います。

○ 田んぼダム詳細（イメージ図）



田んぼダム用フリードレーン

※管流入部及び管流出部の口径をそれぞれ15cm・5cmとし、流出を抑制。管を上下にスライドすることにより、田んぼの水位をコントロールする仕組み（水位調整管は塩化ビニル製）

【担当課・連絡先(TEL/メール)】

行田市環境経済部農政課基盤整備グループ

TEL048-556-1111内線373 メールnosei@city.gyoda.lg.jp

③情報伝達訓練の実施等

○市報 8月号記事

「忍川浸水対策連絡協議会による情報伝達訓練を実施しました」

市では、6月20日（月）、21日（火）の2日間、水資源機構利根導水総合事業所の実施する武蔵水路内水排除情報伝達訓練にあわせ、忍川周辺の自治会が参加する「忍川浸水対策連絡協議会」とともに、災害情報伝達訓練を実施しました。

本訓練では、令和元年台風第19号と同規模の台風が接近したことを想定し、石井市長と関係機関をオンラインでつなぎ、武蔵水路や忍川の水位状況を映像で確認しながら、注意喚起や避難に関する情報メールを発信しました。

市では今後も、実践的な訓練を継続的に実施し、水害対策に万全を期してまいります。

1 訓練（メール）内容

- | | | | |
|---|-------|-------|--------------------------|
| ① | 6月20日 | 16:00 | 台風接近に伴う注意喚起、自主避難所を6時から開設 |
| ② | 6月21日 | 9:00 | 台風接近に伴う注意喚起 |
| ③ | 6月21日 | 10:30 | 警戒レベル3の発令及び避難所の開設 |
| ④ | 6月21日 | 13:45 | 警戒レベル4の発令 |
| ⑤ | 6月21日 | 14:10 | 佐間水門閉門 |

③情報伝達訓練の実施等（つづき）

2 アンケート結果

(1) 回答者数 7名（7/12 58.3%）

(2) 設問及び回答

- ・災害発生時に使用する自治会内での連絡網はありますか【あり…6件／なし…1件】
- ・実災害発生時に、今回の訓練のような自治会長に対する情報伝達体制は有効と考えますか【はい…6件／いいえ…1件】

※「いいえ」の理由

平時からこのような訓練に付随した自治会内での情報伝達訓練が徹底されていないので、実災害発生時に情報連絡体制を整えることができるのか不明であるため（電話にて聞き取り）。

- ・今後も今回と同様の訓練を実施したほうが良いと考えるか【はい…7件／いいえ…0件】
- ・その他本訓練を含めた御意見・感想等
 - ・実災害が発生した場合の動きを想定して、自治会内での練習が必要と感じる。
 - ・連絡網があっても個別の連絡は大変なので、自治会内に一斉に送信できるような仕組みがほしい。
 - ・内容的には非常に有効だと考えるが、自治会内の組織成熟度に応じたケーススタディや目標が欲しい。初めから完璧な対応は難しいので、「最低でもこの程度のラインは確保する」のような、組織体制に応じた目標や行動例があると良いのではないかと。
 - ・自治会役員に対しても同時に配信してもらいたい。
 - ・6月5日に自治会内で防災訓練を実施し、連絡体制等も含めて3年がかりで自治会内すべてで避難訓練等を実施できた。次のステップに進むために何を行うか検討中である。
 - ・このように予告するのではなく、時々抜き打ちでメール送信したらどうか。

避難所の開設情報について

避難所アプリを公開します

目的

令和元年台風第19号の経験から、避難所開設情報及び各避難所の混雑状況を速やかに周知します。

アプリの内容

- ・ 避難所の開設状況と混雑状況を公開します。
- ・ 混雑状況によってアイコンの色が変化します。
- ・ 開設されている避難所のみを表示する機能があります。

混雑状況を視覚的に表示します。



③情報伝達訓練の実施等 (つづき)

実際の画面



QRコード

利用方法

- ①上のQRコードをスマートフォンで読み取ります。
- ②避難所の一覧が表示されます。
- ③開設状況を知りたい避難所の名前をタップします。



行田市の安全・安心のため
全力で取り組んでまいります

○ 問合せ先：協議会事務局（道路治水課）
556-1111（内線5716） doro@city.gyoda.lg.jp